

2024年3月期 第2四半期 決算説明会資料

2023年11月14日

新明和工業株式会社

ShinMaywa
VISION WITH INSIGHT

新明和工業の五十川でございます。

まず初めに、この9月12日に、当社パーキングシステム事業部が公正取引委員会の立入検査を受ける事態となり、多くの方々にご心配をおかけしておりますこと、この場をお借りしてお詫び申し上げます。

本件に関する公正取引委員会の調査には、全面的に協力しておりますが、未だ調査中であることから現時点で当社から新たにお伝えできる事項はございません。結果が明らかになり次第、当社からも速やかにご報告申し上げます。

2024年3月期 第2四半期 連結決算実績

※ 当資料に掲載されている内容のうち数値は表示単位未満を切り捨て、比率は四捨五入して表示しています。
※ 当資料において「1Q」は3カ月累計期間、「2Q」は6カ月累計期間、「3Q」は9カ月累計期間、「通期」は12カ月累計期間を示しています。

それでは、2024年3月期第2四半期決算説明を行います。
まず、2024年3月期第2四半期決算実績についてご説明いたします。

2024年3月期 第2四半期 連結決算実績 サマリー

ShinMaywa
VISION WITH INSIGHT

(単位：百万円)

前年同期比

	23.3期 2Q	24.3期 2Q	増減 (増減率)
受注高	133,910	128,631	△5,278 (△3.9%)
売上高	104,001	116,464	+12,462 (+12.0%)
営業利益	3,206	4,431	+1,225 (+38.2%)
経常利益	4,168	4,858	+690 (+16.6%)
親会社株主に帰属する 四半期純利益	2,871	2,974	+102 (+3.6%)
受注残高	243,764	269,205	+25,441 (+10.4%)
為替レート (1USD円)	132.5円	140.3円	

受注高

- 「特装車」「産機・環境システム」セグメントが減少した結果、全体では減少。

売上高

- 「その他」を除く全てのセグメントが増収となり、全体では増収。
- 2Qとしては過去最高。

利益

- 増収による増益。

© ShinMaywa Industries, Ltd.

2

こちらは、第2四半期の主要な業績数値について、それぞれ前年同期と比較した表です。

受注高につきましては、特装車セグメント、産機・環境システムセグメントが減少した結果、全体では前年同期比マイナス3.9%の1,286億円となりました。

売上高につきましては、その他を除く全てのセグメントが増収となった結果、全体では前年同期比プラス12.0%の1,164億円となり、第2四半期としては過去最高を記録しました。

営業利益は、増収効果により、その他を除く全てのセグメントが増益となり、前年同期比プラス38.2%の44億円となりました。

経常利益は、為替差益の減少などはあるものの、プラス16.6%の48億円、親会社株主に帰属する四半期純利益は、プラス3.6%増の29億円となりました。

受注残高につきましては、高水準の受注を背景に、プラス10.4%増の2,692億円と、過去最高値となっています。

2024年3月期 第2四半期 連結決算実績 セグメント別

ShinMaywa
VISION WITH INSIGHT

(単位：億円)

セグメント	受注高			売上高			営業利益		
	23.3期 2Q	24.3期 2Q	増減	23.3期 2Q	24.3期 2Q	増減	23.3期 2Q	24.3期 2Q	増減
特装車	570	538	△32	437	482	+44	7	11	+3
パーキングシステム	206	236	+29	183	184	+0	11	14	+2
産機・環境システム	241	164	△76	154	196	+42	12	17	+5
流体	138	143	+4	87	92	+5	3	3	+0
航空機	98	119	+20	115	147	+31	7	10	+3
その他	82	84	+1	63	61	△1	3	2	△0
調整額	—	—	—	—	—	—	△13	△15	△2
合計	1,339	1,286	△52	1,040	1,164	+124	32	44	+12

© ShinMaywa Industries, Ltd.

3

セグメント別の受注高、売上高および営業利益はご覧のとおりです。各セグメントの前年同期比の主な増減理由は、後ほどご説明いたします。

連結貸借対照表/連結キャッシュ・フロー計算書

連結貸借対照表

(単位：百万円)

	23.3期末	24.3期 2Q末	増減
現預金	22,745	21,199	△1,546
売上債権	71,417	86,169	+ 14,751
棚卸資産	53,802	60,357	+ 6,555
有形・無形固定資産	45,191	45,198	+ 7
その他資産	33,749	35,722	+ 1,972
資産合計	226,907	248,647	+ 21,740
買入債務	27,310	30,699	+ 3,388
有利子負債	52,417	70,635	+ 18,218
その他負債	46,739	43,556	△3,183
負債合計	126,467	144,891	+ 18,423
自己資本	98,747	102,191	+ 3,444
その他純資産	1,692	1,564	△127
純資産合計	100,439	103,756	+ 3,316
負債・純資産合計	226,907	248,647	+ 21,740
自己資本比率	43.5%	41.1%	

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	23.3期 2Q	24.3期 2Q	増減
営業活動による キャッシュ・フロー	△6,137	△14,676	△8,539
投資活動による キャッシュ・フロー	△4,074	△3,028	+ 1,046
フリー・ キャッシュ・フロー	△10,211	△17,704	△7,492
財務活動による キャッシュ・フロー	△121	15,797	+ 15,919

連結貸借対照表、および連結キャッシュ・フロー計算書は、ご覧のとおりです。第2四半期末時点の資産は、売上債権や棚卸資産の増加などにより、前期末に比べて217億円増加し、2,486億円となりました。

負債は、買入債務や短期借入金の増加などにより、前期末に比べて184億円増加し1,448億円となりました。

純資産は配当金の支払はあったものの、親会社株主に帰属する四半期純利益を計上したことなどにより、前期末に比べて33億円増加し1,037億円となりました。

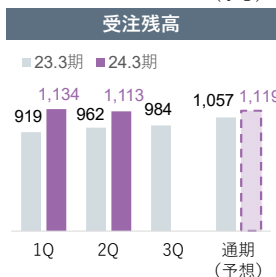
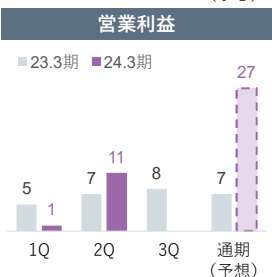
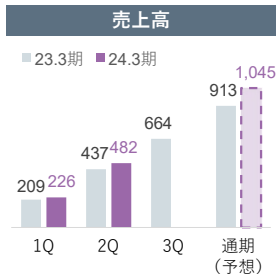
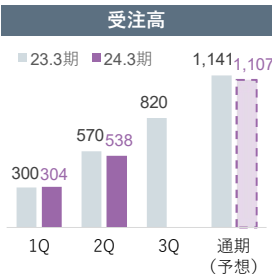
これらの結果、自己資本比率は前年度末の43.5%から41.1%に低下いたしました。連結キャッシュ・フローにつきましては、営業活動によるキャッシュ・フローは、売上債権などの運転資金増加により前年同期に比べて85億円減少の146億円のマイナス、投資活動の結果支出したキャッシュ・フローは10億円減少の30億円、これらの結果フリー・キャッシュ・フローは74億円減少の177億円のマイナスとなりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、運転資金確保のための借入金増加により159億円増の157億円となりました。

特装車セグメント

ShinMaywa
VISION WITH INSIGHT

業績推移 (単位: 億円)



第2四半期実績 (前年同期比)

受注高

- 林業用機械等の増加
- 建設関連車両、環境関連車両、トレーラの減少

売上高

- 建設関連車両、物流関連車両、環境関連車両の増加

営業利益

- 増収による増益 (価格改定効果含む)

受注残高の手持月数推移

(単位: カ月) ※

23.3期				24.3期			
1Q	2Q	3Q	通期	1Q	2Q	3Q	通期 (予想)
11.9	12.6	13.0	13.9	12.7	12.8		12.9

※受注残高÷1カ月当たりの売上高で算出 (1Q~3Qは通期業績予想を基準に算出)

© ShinMaywa Industries, Ltd.

5

続きまして、第2四半期の業績について、セグメント別に前年同期比でご説明いたします。

まず、特装車セグメントです。

受注高は、林業用機械等を取り扱うイワフジ工業が増加いたしました。建設及び環境関連車両に加え、トレーラを取り扱う東邦車輛が減少した結果、全体では減少いたしました。

売上高は、価格改定効果に加え、主要部品調達遅れが前年同期に比べて緩和したことなどから、建設、物流、環境関連車両などを中心に増加いたしました。

営業利益につきましては、増収による増益となりました。

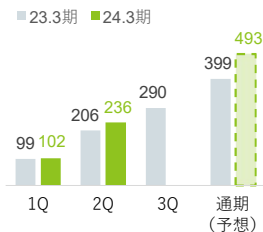
なお、受注残高につきましては、引き続き高い水準で推移しており、2023年9月末時点で、12.8カ月の受注残高を保有しております。

パーキングシステムセグメント

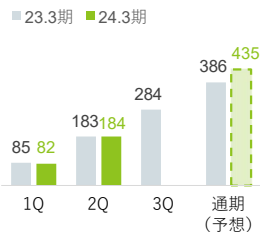
ShinMaywa
VISION WITH INSIGHT

業績推移 (単位: 億円)

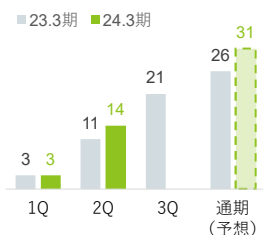
受注高



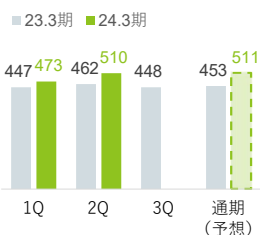
売上高



営業利益



受注残高



第2四半期実績 (前年同期比)

受注高

機械式駐車設備：サービス事業の増加
航空旅客搭乗橋：海外の増加

売上高

機械式駐車設備：製品の減少
サービス事業の増加
航空旅客搭乗橋：国内・海外の減少

営業利益

機械式駐車設備：サービス事業の増収による増益
航空旅客搭乗橋：減収による減益

© ShinMaywa Industries, Ltd.

6

次にパーキングシステムセグメントです。

受注高は、機械式駐車設備において、リニューアルや改修修理などのサービス事業が増加、航空旅客搭乗橋においても、東南アジアを中心に海外が増加したことから、全体でも増加いたしました。

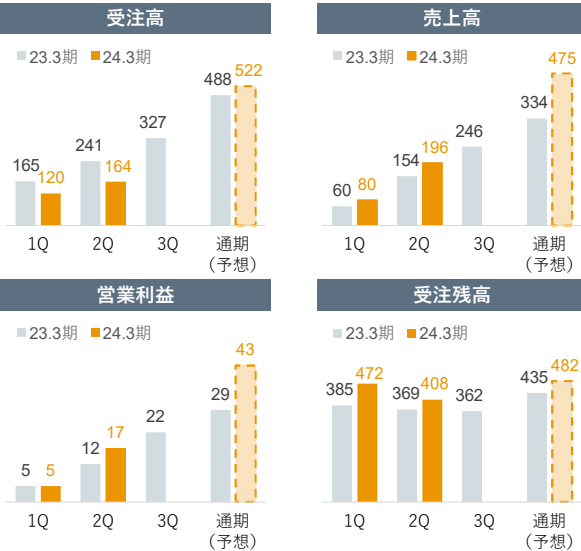
売上高は、航空旅客搭乗橋が、国内、海外ともに減少したものの、機械式駐車設備は、受注と同様にサービス事業が増加し、全体では増収となりました。

営業利益につきましては、航空旅客搭乗橋が減収による減益となったものの、機械式駐車設備は、収益の柱であるサービス事業が増収による増益となったことから、全体では増益となりました。

産機・環境システムセグメント

ShinMaywa
VISION WITH INSIGHT

業績推移 (単位：億円)



第2四半期実績 (前年同期比)

受注高

メカトロニクス製品：真空製品の減少
環境関連事業：プラント案件の増加

売上高

メカトロニクス製品：真空製品の増加
環境関連事業：プラント案件の増加

営業利益

メカトロニクス製品：増収による増益
環境関連事業：増収による増益

サブセグメント別 受注高・売上高推移

(単位：億円)

サブセグメント		23.3期				24.3期			
		1Q	2Q	3Q	通期	1Q	2Q	3Q	通期(予想)
メカトロニクス製品	受注高	125	163	197	341	41	69		258
	売上高	44	117	183	236	61	149		327
環境関連事業	受注高	39	77	130	146	78	95		264
	売上高	16	36	62	97	19	47		148

© ShinMaywa Industries, Ltd.

7

次に産機・環境システムセグメントです。

受注高は、環境関連事業が、プラント案件の受注増により増加したものの、メカトロニクス製品においてEV用二次電池向け真空乾燥装置の製造販売を手がける韓国真空が、受注時期のずれなどにより、大口案件を受注した前年同期に比べて減少し、セグメント全体では減少しました。

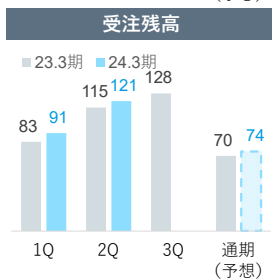
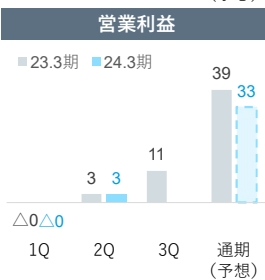
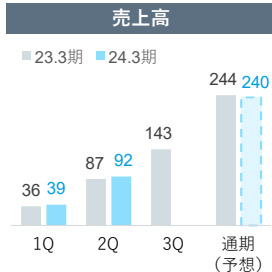
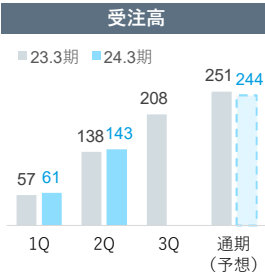
売上高は、メカトロニクス製品が、前期に受注した韓国真空の大口案件が寄与し増加、環境関連事業においても好調な受注を背景に増収となり、セグメント全体でも増収となりました。

営業利益は、メカトロニクス製品、環境関連事業、ともに増収による増益となりました。

流体セグメント

ShinMaywa
VISION WITH INSIGHT

業績推移 (単位: 億円)



第2四半期実績 (前年同期比)

受注高

- 需要が堅調に推移し増加

売上高

- システム製品の増加
- サービス事業の増加

営業利益

- 増収による増益

© ShinMaywa Industries, Ltd.

8

次に流体セグメントです。

受注高は、自治体向けの下水処理事業が堅調に推移し、増加いたしました。

売上高は、システム製品やサービス事業を中心に増収となりました。

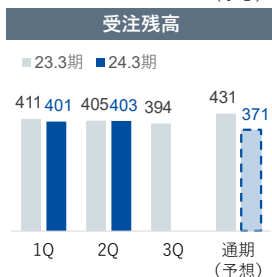
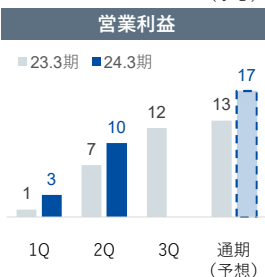
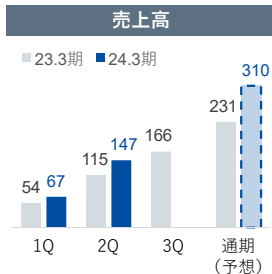
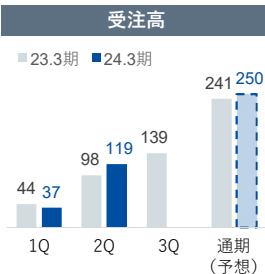
この結果、営業利益は、増収による増益となりました。

なお、当セグメントは、官公庁向けの売上比率が高く、収益の計上時期が、第4四半期に偏重しております。

航空機セグメント

ShinMaywa
VISION WITH INSIGHT

業績推移 (単位: 億円)



第2四半期実績 (前年同期比)

受注高

防衛省向け：輸送機向けコンポーネント等の増加
民需関連：「G7500」受注機数減少

売上高

防衛省向け：US-2型救難飛行艇 製造作業の増加
民需関連：「777/777X」「787」生産機数増加
為替の円安による増収

営業利益

増収および為替の円安等による増益

民需関連 生産機数

(単位: 機)

	23.3期 2Q	24.3期 2Q
777/777X	14	17
787	11	15
G7500	21	18

為替感応度 (10月以降)

1円/USドルの円安進行で
約0.4億円の営業利益増

© ShinMaywa Industries, Ltd.

9

最後に航空機セグメントです。

受注高は、民需関連が、グローバル7500の受注機数が減少したものの、防衛省向けは、輸送機向けコンポーネントなどが増加したことから、全体では増加いたしました。

売上高は、防衛省向けが、US-2型救難飛行艇の製造作業が進捗、民需関連は、ボーイング777および787の生産機数が増加したことに加え、為替が円安に推移したことなどから、全体では増収となりました。

営業利益につきましても、増収および為替の円安効果などにより増益となりました。

2024年3月期 連結業績予想

続きまして、ここからは2024年3月期の連結業績予想についてご説明いたします。

2024年3月期 連結業績予想 サマリー

ShinMaywa
VISION WITH INSIGHT

(単位：百万円)

従来予想比

	23.3期 実績	24.3期 予想		増減 (増減率)			
		従来予想	修正予想	前期比		従来予想比	
受注高	267,159	271,000	275,000	+7,840	(+2.9%)	+4,000	(+1.5%)
売上高	225,175	270,000	265,000	+39,824	(+17.7%)	△5,000	(△1.9%)
営業利益	9,293	12,000	12,000	+2,706	(+29.1%)	—	(—)
経常利益	9,902	11,700	11,700	+1,797	(+18.2%)	—	(—)
親会社株主に帰属する 当期純利益	7,313	7,300	7,300	△13	(△0.2%)	—	(—)
受注残高	255,859	256,859	265,859	+10,000	(+3.9%)	+9,000	(+3.5%)
1株当たり年間配当金	45円	45円	45円	—	—	—	—
配当性向	40.5%	40.6%	40.7%	+0.2pt	—	+0.1pt	—
為替レート (1USD)	135.5円	130.0円	135.0円※	—	—	—	—

※ 修正予想の為替レートについては、10月以降の前提レートを表示しています。

© ShinMaywa Industries, Ltd.

11

- 業績予想は従来予想から受注高を上方修正、売上高を下方修正。
- 利益は、従来予想から据え置き。ただし、営業利益についてはセグメント別内訳を見直し。(スライド14参照)

こちらは、今回公表した2024年3月期の業績予想を、前年実績および（この8月に行った）従来予想と比較した表です。

従来予想比では、受注高は、特装車セグメント、産機・環境システムセグメントの増加を見込み、40億円増の2,750億円に上方修正、売上高は、特装車セグメント、その他セグメントの減収を見込み、50億円減の2,650億円に下方修正いたしました。

一方、利益は、為替相場や、原材料・エネルギー価格の高騰など、先行き不透明な状況は続いています。為替前提レートを135円に変更したこともあり、全体としては、従来予想から据え置いています。

事業環境（報告セグメント）

ShinMaywa
VISION WITH INSIGHT

セグメント	予想	事業環境（見通し）
特装車		➤ 主要部品調達遅れ等に伴う生産活動の停滞は回復傾向にあるものの、不確定な状況は続く。年明けに見込んでいた正常化は、更に長期化の見込み。 ➤ 鋼材価格の高止まり、加工費や物流費、エネルギー費等の運営費上昇が、コストアップ要因となる一方で、前期初に実施した一度目の価格改定効果は、増益要因として今期から本格的に顕在化。 ➤ 今期初から二度目の価格改定を実施。受注は堅調に推移しているが、期初時点で13カ月を超える受注残高を保有しており、本格的に売上に反映されるのは、来期以降となる見通し。
パーキングシステム		➤ 機械式駐車設備の製品需要は引き続き堅調。前期の減益要因となったサービス事業は回復し増収増益の見通し。なお半導体不足の本格的な回復は2024年度になる見通し。 ➤ 航空旅客搭乗橋は、コロナ禍で延期、中断していた案件が動き出し、市場は急速に回復していく見通し。
産機・環境システム		➤ メカトロ事業は、線処理機は中国市場が不動産不況などにより不振となるも、北米市場は需要旺盛。真空乾燥装置はEV市場の成長と連動した車載二次電池関連設備の加速度的な投資の増加を背景に、売上規模は拡大する見込み。なお、真空乾燥装置における顧客の設備投資需要は、今期～来期がピークとなる予測。 ➤ 環境関連事業は、プラント案件の需要が堅調。これに伴うストック事業の増加もセグメント業績を下支え。
流体		➤ 国内官需関連は、国土強靱化計画等による豪雨・浸水対策分野が引き続き伸長、下水処理施設の広域化・共同化、ストックマネジメント推進によるリニューアル&サービス分野が堅調に推移する見通し。 ➤ 国内民需関連は食品工場向けなど省エネ製品への関心が高く、ターボブロワを中心に需要増。海外関連は北米市場、東南アジア市場を中心に底堅く推移する見通し。
航空機		➤ 防衛省向けは、防衛省の方針のもと、今後の需要増に期待。今期は、主力製品であるUS-2型救難飛行艇の製造進捗等により売上は増加する見込み。 ➤ 民需関連も、ボーイング社向けの製品が回復基調により、前期と比べて生産機数は増加する見通し。

© ShinMaywa Industries, Ltd.

12

こちらは、当社グループの事業環境をセグメントごとに表した表です。

特装車は、主要部品調達遅れなどに伴う生産活動の停滞は回復傾向にあるものの、シャシ入荷に関する不確定な状況は続いており、正常化には、もう少し時間がかかる見込みです。

利益面では、運営費の上昇などのコストアップ要因はあるものの、前期の期首から実施している価格改定効果が、増益要因として今期から本格的に顕在化しております。

また、今期の期初から二度目の価格改定を実施しております。期初時点で13カ月を超える受注残高を保有しており、効果の顕在化にはタイムラグがありますが、来期は今期に比べてさらなる収益の改善が期待できます。

パーキングシステムは、収益の柱であるリニューアルや改修修理などのサービス事業において、半導体不足に伴う電気部品の長納期化に伴い、前期は売上が減少しておりましたが、今期は増収増益となる見込みです。また、航空旅客搭乗橋は、コロナ禍で延期、中断していた東南アジア圏の大型空港案件が動き出し、市場は急速に回復していく見通しです。

産機・環境システムは、EV市場の成長と連動した車載二次電池関連設備の加速度的な投資の増加を背景に、今期も真空乾燥装置の売上規模が大幅に拡大する見通しです。

また、環境関連事業においても、プラント案件の需要が堅調であることから、セグメント全体として好調に推移する見通しです。

流体は、国内市場は、官需関連が好調を維持し、民需関連も食品工場向けの、

ターボブロワなどを中心に需要が増加するなど、堅調に推移しております。海外市場も底堅く推移していることから、今後も安定的に利益を確保できる見通しです。

航空機は、防衛省の方針のもと、今後の航空機部品の需要増が期待でき、民需関連も、主力であるボーイング社向けの製品が回復基調にあります。今期は、US-2型救難飛行艇の製造作業進捗や、ボーイング社向け製品の生産機数増加などにより、防衛省向け、民需関連ともに売上が増加する見通しです。

2024年3月期 連結業績予想 セグメント別（前期比）

ShinMaywa
VISION WITH INSIGHT

（単位：億円）

セグメント	受注高			売上高			営業利益		
	23.3期 （実績）	24.3期 （予想）	増減	23.3期 （実績）	24.3期 （予想）	増減	23.3期 （実績）	24.3期 （予想）	増減
特装車	1,141	1,107	△34	913	1,045	+ 131	7	27	+ 19
パーキングシステム	399	493	+ 93	386	435	+ 48	26	31	+ 4
産機・環境システム	488	522	+ 33	334	475	+ 140	29	43	+ 13
流体	251	244	△7	244	240	△4	39	33	△6
航空機	241	250	+ 8	231	310	+ 78	13	17	+ 3
その他	149	134	△15	141	145	+ 3	7	5	△2
調整額	—	—	—	—	—	—	△30	△36	△5
合計	2,671	2,750	+ 78	2,251	2,650	+ 398	92	120	+ 27

© ShinMaywa Industries, Ltd.

13

今ご説明した、事業環境予測を加味したセグメント別の受注高、売上高および営業利益の通期予想はご覧のとおりです。

まず、前期比の主な増減理由をご説明しますと、受注高は、航空旅客搭乗橋の市場が回復傾向にあるパーキングシステムで93億円の増加を見込んでおり、全体では78億円増の2,750億円となる見通しです。

売上高は、産機・環境システムで、子会社の韓国真空の伸長から140億円の増加、特装車で、生産活動の停滞の回復や、価格改定効果により131億円の増加を見込んでいます。そのほか航空機やパーキングシステムでも増収が期待できることから、全体では398億円増の2,650億円となる見込みです。

営業利益は、特装車や産機・環境システムを中心に増益が期待でき、全体では27億円増の120億円となる見込みです。

2024年3月期 連結業績予想 セグメント別（従来予想比）

ShinMaywa
VISION WITH INSIGHT

（単位：億円）

セグメント	受注高			売上高			営業利益		
	24.3期 （従来予想）	24.3期 （修正予想）	増減	24.3期 （従来予想）	24.3期 （修正予想）	増減	24.3期 （従来予想）	24.3期 （修正予想）	増減
特装車	1,079	1,107	+28	1,068	1,045	△23	29	27	△2
パーキングシステム	490	493	+3	436	435	△1	31	31	－
産機・環境システム	496	522	+26	475	475	－	37	43	+6
流体	242	244	+2	242	240	△2	33	33	－
航空機	270	250	△20	313	310	△3	17	17	－
その他	133	134	+1	166	145	△21	8	5	△3
調整額	－	－	－	－	－	－	△35	△36	△1
合計	2,710	2,750	+40	2,700	2,650	△50	120	120	－

© ShinMaywa Industries, Ltd.

14

次に、従来予想からの変更はご覧のとおりです。

主な増減理由をご説明しますと、受注高は、林業用機械等の受注が好調に推移している特装車で28億円の増加、環境関連の受注が好調な産機・環境システムで26億円の増加を見込んでおり、全体では40億円の増加となる見通しです。

売上高は、主要部品の調達遅れや、シャーシ入荷の不確定な状況が続く特装車で23億円の減少、その他で21億円の減少を見込んでおり、全体では50億円の減収となる見通しです。

営業利益は、特装車やその他で減収による減益を見込む一方で、産機・環境システムにおいて、真空乾燥装置の製造販売を手掛ける韓国真空で、為替の影響による増益を見込み、全体では従来予想から据え置きの120億円となる見通しです。

以上をもちまして、2024年3月期第2四半期決算説明を終了いたします。ご清聴いただき、どうもありがとうございました。